

地域情報（県別）

【大阪】大阪南部初のジェンダー専門外来を開設-織田裕行・きじまこころクリニック院長に聞く ◆Vol.1

2022年9月23日 (金)配信 m3.com地域版

「きじまこころクリニック」（岸和田市）は2021年の開院に合わせ、ジェンダー専門外来を開設した。性同一性障害（GID）の診療を行う専門外来は全国的にも珍しく、大阪南部では初という。日本におけるこの分野の黎明期から診療し、現在はガイドラインの作成にも携わる精神科医の織田裕行院長に、外来開設の背景やジェンダー医療の歴史について聞いた。（2022年9月6日インタビュー、計3回連載の1回目）

▼第2回はこちら

▼第3回はこちら

——きじまこころクリニックは医療法人桐葉会が運営しています。2021年11月に開院した背景をお聞かせください。

当院はこちらで長く運営していた精神科の稲垣診療所を継承し、開院したクリニックです。院長を務めていた稲垣俊雄先生は精神科医療の黎明期から診療に尽力されてきた方ですが、高齢のために閉院を考えていたと聞きます。そんななか、大阪府貝塚市で精神科などを標ぼうする木島病院や介護老人保健施設、認知症高齢者グループホームなどを運営する桐葉会が継承を希望し、私に院長就任の打診がありました。私は1996年に関西医科大学を卒業してからクリニックの開院まで同大に勤務した一方、1997年から木島病院でも非常勤医として働いていました。木島病院の高瀬勝教院長は大学の同期であり、旧知の仲です。高瀬院長から「院長に」と相談がありました。



織田裕行氏（クリニック提供）

——すると、こちらでは木島病院と連携しているのでしょうか。

はい。大阪府では医療政策の影響で大阪市内にある精神科病院は一つのみで、南北に点在しています。そのため、南部に位置する貝塚市と岸和田市の周辺には数千もの精神科病床がありますが、精神科は医療の進歩などによって長期入院が減っており、病診連携が大きなテーマです。当院の患者さんで入院の必要がある場合、木島病院に紹介する体制ができています。

クリニックには私を含めて7人のスタッフが在籍しており、事務と看護師のほか、公認心理師や作業療法士、精神保健福祉士もいます。当院は稲垣診療所にあった精神科デイケアも引き継いでおり、こういった多職種がデイケア運営の面でも活躍してくれています。

——先生は開院に合わせ、ジェンダー専門外来を開設しました。性同一性障害の診断と治療を専門に行う外来は全国的にも珍しいのでは。

そうですね。全国でも少なく、大阪南部では初だと思います。私が知る限り、大阪府でジェンダー医療を行っている精神科は「いりさわ心と体のクリニック」（大阪市）と「そんメンタルクリニック」（同）、大阪医科薬科大学（高槻市）くらいではないでしょうか。いりさわ心と体のクリニックでは私も非常勤医として診療しています。

私がきじまこころクリニックにジェンダー専門外来を開設したのは性同一性障害の診療を長く行ってきたことに加え、「全国的に詳しい医師が少なく相談が各地から寄せられる」という状況も関係しています。実際、開院してから今までに京都府や兵庫県、三重県、和歌山県、静岡県からも患者さんが来院されています。関西で専門外来を運営する精神科があるのは大阪府だけだと思うのですが、こうした医療環境が患者層に影響しているのでしょうか。

——先生はなぜ、性同一性障害の診療という全国的に担い手が少ない分野に関わるようになったのですか。

「縁あって」というのが実感でしょうか。日本における性同一性障害の診療の歴史は新しく、1998年に埼玉医科大学で国内初の性別適合手術が行われたことで徐々に臨床活動が増えてきました。手術が行われたことはメディアでも報じられ、その翌年ごろから関西医科大学にも関連する相談が寄せられるようになったのですが、私はちょうどこのころ、性同一性障害に関する勉強もしていました。元々、教授の勧めがあって勃起障害の研究をしており、その関連でジェンダーのことも学んでいるところでした。

性同一性障害の診断は2人の精神科医の意見が一致した場合に確定しますが、体の性の判定は泌尿器科医や婦人科医の協力が必要であり、治療においては形成外科医なども携わります。そのため、これらの医師と協力して2003年に医療チームを作り、ガイドラインに沿った医療の提供を始めました。

——関西医科大学は2004年、埼玉医科大学と岡山大学に続いて性別適合手術を行いました。先生はこの患者の診療にも関わったのでしょうか。

はい。性別適合手術を行うかどうかは、医療者のほかに弁護士や学者なども参加する「性別適合手術適応判定会議」を開き、倫理的な妥当性を話し合ったうえで決定されます。当時は学内にこうしたガイドラインをよく理解している医師が私しかおらず、その患者さんの精神科診療と判定会議を並行して行いました。

自分の診療が病院や国の動きと密接につながる感覚を得られたことは、医師として貴重な経験だったかもしれません。その後、診療の枠組みづくりにも関わるようになり、日本精神神経学会の「性同一性障害に関する委員会」の委員としてガイドラインの作成にも第3版から携わっています。

◆織田 裕行（おだ・ひろゆき）氏

1996年関西医科大学卒。同大精神神経科学講座助教、同講座診療講師などを経て2021年に医療法人桐葉会「きじまこころクリニック」院長に就任。日本におけるジェンダー医療の黎明期から性同一性障害の診療に携わる。精神科専門医・指導医、GID（性同一性障害）学会認定医、日本性機能学会専門医、NPO法人「関西GICネットワーク」副理事長など。

【取材・文＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

